

ID	
氏名	
年齢	
科名	病棟

mini CHOP[day2]+ 【BS】Rituximab療法

週毎 コース予定

悪性リンパ腫

主治医

指導医

HBs抗原()、HBs抗体()、HBc抗体()、HCV抗体()

スケジュール

		day1	day2	day3	~	day6
リツキシマブBS	375 mg/m ²	↓				
プレドニン	40 mg/m ²		↓	↓	↓
ドキシソルビシン	25 mg/m ²		↓			
オンコピン(ピンクリスチン)	1 mg/body		↓			
エンドキサン(シクロホスファミド)	400 mg/m ²		↓			

【注意】 *ドキシソルビシンの総投与量は500 mg/m²を超えないこと

通常量より減量する際の理由

(レジメン)

【初回のみ】*初回投与は必ず入院で実施

day1

- ① イブプロフェン100 mg _____錠、デザレックス5 mg _____錠 内服

☆30分後より

- ② 生食500 mLにて血管確保 維持(20 mL/時間)

- ③ リツキシマブBS + 生食 適量(10倍希釈)

◎輸液ポンプにて50 mL/時間で点滴静注

*注:総量600 mLを超える時はテルモ生食1Lを使用

- ④ 50 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
◎輸液ポンプにて100 mL/時間で点滴静注
- ⑤ 100 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
◎輸液ポンプにて150 mL/時間で点滴静注
- ⑥ 150 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
◎輸液ポンプにて200 mL/時間で点滴静注
- ⑦ 200 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
◎輸液ポンプにて250 mL/時間で点滴静注
- ⑧ 250 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
◎輸液ポンプにて300 mL/時間で点滴静注
- ⑨ 300 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
◎輸液ポンプにて350 mL/時間で点滴静注
- ⑩ 350 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
◎輸液ポンプにて400 mL/時間で点滴静注

【2回目以降】第1サイクルにおいて発現した有害事象がGrade 2以下であった場合

- ① イブuproフェン100 mg_____錠、デザレックス5 mg_____錠 内服
☆30分後より
- ② 生食500 mLにて血管確保 維持(20 mL/時間)
- ③ リツキシマブBS + 生食 適量(10 倍希釈)
◎輸液ポンプにて100 mL/時間で点滴静注
*注:総量600 mLを超える時はテルモ生食1Lを使用
- ④ 100 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
◎輸液ポンプにて200 mL/時間で点滴静注
- ⑤ 200 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
◎輸液ポンプにて300 mL/時間で点滴静注

- ⑥ 300 mL/時間で30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ
- ◎ 輸液ポンプにて400 mL/時間で点滴静注

day 2 抗がん薬投与1時間半前にアプレピタントカプセル125 mg 1C 内服

- ① ソリタT3 200 mLにて血管確保 維持(20 mL/時間)
- ② パロノセトロン0.75 mg + 生食20 mL 側管静注
- ③ プレドニン + 生食50 mL 点滴静注5分(600 mL/時間)
- ④ ドキソルビシン + 生食50 mL 点滴静注5分(600 mL/時間)
- ⑤ オンコビン + 生食50 mL 点滴静注5分(600 mL/時間)
- ⑥ エンドキサン + 生食100 mL 点滴静注60分(200 mL/時間)

◎血管確保していたソリタT3をエンドキサンと同時滴下90分で点滴静注

day 3 - 4 アプレピタントカプセル80 mg 1C 1×朝食後 内服

day 3 - 6 プレドニン 内服

	コース		コース		コース		コース	
	day1 /	day2 /	day1 /	day2 /	day1 /	day2 /	day1 /	day2 /
リツキシマブBS 開始時刻	↓		↓		↓		↓	
プレドニン 開始時刻		↓		↓		↓		↓
ドキソルビシン 開始時刻		↓		↓		↓		↓
オンコビン 開始時刻		↓		↓		↓		↓
エンドキサン 開始時刻		↓		↓		↓		↓
確認								